



会報 第45号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
● 編 集 ●
同上編集委員会
● 印刷所 ●
(株) 井上総合印刷

コロナに立ち向かう

同窓会会長

廣 田 茂十郎



令和四年の新年を迎え
会員の皆さまには、まず
まず御健勝のこととお慶
び申し上げます。

今年の干支は壬寅（み
ずのえとら）です。大き
く花開くためには、地道
な自己研鑽を行い、実力
を養う必要があることを
示し、冬が厳しい程、春
の芽吹きは生命力に溢
れ、華々しく生まれる年
になるという意味がある
と言われています。

さて、一昨年年頭より
始まった新型コロナウイルス
感染症は全世界で
二億八千九百人が感染
し、死者は五百四十四万
人にのぼり、日本におい
ても、百七十三万人の感
染者、亡くなられた方も
一万八千人を超えていま
す（令和四年一月頭現
在）。あらゆる人の生活
経済活動に大きな影響を
及ぼしています。母校に
おいても、活動がいろい
ろ制限され、生徒の皆さ
ん、校長先生をはじめ先
生方の御苦労と御努力が
いかばかりと推察すると

同時に敬意を表します。

しかしながら、この困
難に立ち向かい、乗り越
えていくことは、皆さん
にとっては、大きな経験
と実績になるはずです。

校訓の「今日あるを感
謝し、最善を尽くす」は、
二宮尊徳先生の精神に基
づくものですが、どんな
困難にも勇気を持って立
ち向かうという意味も込
められていると私は考え
ます。

母校は今年創立百十五
年を迎えますが、その歩
みの中で、地域を支える
リーダーを輩出し続けて
きた長くて深い歴史があ
ります。

先輩の皆さんは、多く
の困難に立ち向かいなが
らも新しい時代を切り開
いてきました。

そのことが、真岡北陵
高校に脈々と流れ続けて
いる校風なのです。

結びに、母校と本会の
皆さまの発展、生徒の
皆さんのご活躍をご祈念
申し上げ、挨拶とさせて
いただきます。

したたかに生きる北陵高生

校長

藤 野 康 之



令和四年の新年を迎
え、同窓会の皆様におか
れましては、益々ご健勝
のこととお慶び申し上げ
ます。また、平素より本
校教育活動に對しまして
格別のご理解とご支援を
賜り、熱く御礼を申し上げ
ます。

さて、令和三年度もコ
ロナ禍が、本校の教育活
動にも大きな影響を与え
ました。同窓会の皆様に
今年度の様子を報告させ
ていただきます。

学校行事は、昨年度に
引き続き体育館に全校生
徒を集めることができな
いため、各種式典は、ク
ラスの教室において放送
を聴くという方法で行っ
ております。また、楽し
みにしていた、修学旅行・
学校祭・マラソン大会・
球技大会等も基本的に本
来の形では中止としまし
た。十一月からは感染数
は激減しましたが、大き
な行事の判断時期が非常
事態宣言中であつたこと
もあり、中止を余儀なく
されました。しかし、昨
年度よりは感染防止の工

夫をした活動を実施しま
した。修学旅行は、当初
は十月に関西方面に二
泊三日の予定でしたが、
十二月に県内に一泊二日
としました。また、学校
祭は不特定の方を来校さ
せられず、飲食もリスク
が高いということで、本
来の形を中止し、生徒が
意見を出し合つて、クイ
ズ大会を実施しました。

これは、クラスの代表生
徒のみが体育館に集ま
り、残りの生徒は各H R
十五カ所で開催。合計
十六カ所をタブレットを
使ってZOOMでオンラ
イン接続するという方法
です。初めての試みでし
たが、各クラスから歓声
があがり、非常に盛り上
がったイベントとするこ
とができました。

これを支えたICT環
境について紹介します。
コロナ禍における県の
取り組みで、国のGIGA
スクール構想の前倒しと
して、全生徒数のタブ
レット（現在は生徒数の
1/3）、各H Rに電子
黒板、校内Wi-Fi等が導

入されました。今後感染
拡大により、学校が臨時
休校となった場合はオン
ライン授業も想定してい
くことになります。

このような制限を受け
た状況ではありますが、タ
ブレットにつけたように、
北陵高生はしたたかに活
動をしております。「し
たたか」は「強か」と書
くように「粘り強く、
他からの圧力になかなか
屈しないさま」とありま
す。しっかりと、地に足
をつけて努力しております。

部活動では、ライフル
射撃部が、県の高校総体
で優勝、関東大会、全国
大会に出場しました。陸
上部も二種目が関東大会
出場。農業クラブでは、
県大会において、家畜審
査競技会で最優秀賞、プ
ロジェクト発表I類で最
優秀賞、III類で優秀賞、
意見発表I類で優秀賞、
II類で最優秀賞、III類で
も最優秀賞と県内では圧
巻の成績でした。全国大
会では鑑定競技会で優秀
賞と活躍しました。

介護福祉科では「介護
福祉の未来」作文コン
クールで全国において昨
年度に引き続き優秀賞も
素晴らしい結果でした。
「とちぎ地産地消費大

賞」では食品科学研究部
が二年連続「優秀賞」で
福田知事から直接表彰を
受けました。グローバル
GAPも米が三年連続
ニホンナシが二年連続認
証を受けました。ニュー
ジランドとのオンライン
交流や、福祉科のVR
体験学習なども新聞にと
りあげられました。
進路においては、一回
目の就職試験でほぼ九割
が内定するという素晴ら
しい結果でした。また、
進学においても宇都宮大
学に三年連続合格を筆頭
に結果を出してくれまし
た。

これらの活躍は、ホー
ムページに掲載しており
ます。また、昨年度より
ホームページ上に同窓会
のコーナーを設け、同窓
会新聞を掲載しておりま
す。ご利用頂ければ幸い
です。

今後の状況は予想がで
きませんが教職員一丸と
なって、本校の教育活動
を止めずに、安全に配慮
しつつ生徒の活動を盛り
上げて行く所存です。同
窓会の皆様におかれま
しては、なお一層のご支
援・ご協力を賜りますこ
とをお願い申し上げます。
報発行のご挨拶といたし
ます。

青年部部長 挨拶

平成二十三年度卒

川 澄 聖 人



今年度、同窓会青年部部長を仰せつかっております。川澄 聖人です。この度、会報に発行にあたり、ご挨拶申し上げます。日頃より青年部活動に對しまして、格別のご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。

私たち同窓会青年部の主な活動として一番重点を置いていますのが、学校祭での焼きそば販売です。前年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で思うような活動ができず不完全燃焼に終わってしまいました。今年こそはと私も含め他のメンバーも意気込んでいたが今年も中止となり残念でした。ですが、その分来年度はさらに力を入れ、皆さんの高校生活の思い出と、これから先へ繋がる刺激になればいいなと思っております。

私たちの活動に興味を持ってくれたのなら、卒業してから一緒に焼きそばを焼きましょう！最後にありますが、今後とも青年部活動にご指導、ご協力頂きますようお願い申し上げます。

P T A会長挨拶

P T A会長

大 塚 貴 久



同窓会の皆様におかれましては、日頃より本校の活動に對しご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。今年度P T A会長を務めさせていただきます。行事が中止になることもありますが、気の抜けない一年だったと思います。

令和三年度も、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、残念ながら昨年に引き続き、例年通りの活動を行う実施することは難しく、予定されていた行事ができず、残念でした。来年こそは生徒たちを見守りながら活動できることを期待したいと思います。

さて、今年度の本校の活動に目を向けてみますと、昨年度は多くの部活動が練習の制限や大会の中止があり満足いく活動ができませんでした。が、ワクチン接種や対策を行うなか、練習が再開され大会も実施されるようになり、生徒たちにも活気が見られるようになりました。学校行事も内容を変更しながら実施できるようにになり、うれしく思います。しかし、新型コロナウイルス感染症の波が押し寄せるたびに行事が中止になることもあり、気の抜けない一年だったと思います。

叙勲おめでとうございます

瑞宝単光章を受賞して

昭和四十二年度卒 櫻 井 和 夫



令和二年度の春の叙勲に際しまして、はからずも瑞宝単光章(皇室業務)の栄に浴し、身の余る栄光と感激しております。

本来、勲記・勲章の伝達式は宮内庁本庁で行われ、その後天皇陛下の拝謁の栄を賜るところですが、コロナ禍により中止になってしまいました。

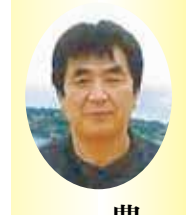
この受章は私ひとりの栄誉ではなく、多くの皆様に支えられてのお陰と心から感謝しております。

四十四年から平成二十二年の定年退職までの約四十年、更に再任用として四年間宮内庁御料牧場に勤務致しました。

まずは羊の飼育管理から始まり、後に粗飼料生産、野菜栽培等、いくつかの業務を担当いたしました。

皇族の方々がご静養で訪れることが多く、場内を視察される際には、担当係として説明をさせていただきます。一緒に野菜の収穫作業をするなど、大変貴重な体験をさせていただきました。

私は、本校を卒業後、農業高校卒業の自分が役立つ仕事をしたく、昭和



農業研修中

昭和五十九年度卒 菅 谷 佳 宏

栃木県農業士 認定おめでとうございます

私は、地元で水稲三十ヘクタール、麦十ヘクタールの農業経営をしています。本校在学中は、稲作の一本植えから三本植えの収量を調べた実習を思い出します。毎年田植えの度に、仲間や指導して下さった先生方が目に浮かびます。

卒業後は、長野で学生生活を送った後、就農しました。就農と共に、四日クラブや消防団などへ入団し、新しい出会いと活動には多くの経験となりました。活気に満ちていた先輩方は、今でも頼りになります。

卒業後は、長野で学生生活を送った後、就農しました。就農と共に、四日クラブや消防団などへ入団し、新しい出会いと活動には多くの経験となりました。活気に満ちていた先輩方は、今でも頼りになります。

卒業後は、長野で学生生活を送った後、就農しました。就農と共に、四日クラブや消防団などへ入団し、新しい出会いと活動には多くの経験となりました。活気に満ちていた先輩方は、今でも頼りになります。

優良同窓生紹介

懐かしき母校真農

昭和四十三年度卒 加 藤 トシエ



令和三年度同窓会総会に於て、身に余る表彰を受け、同窓会報発行に当り一言お礼申し上げます。これも一重に私を育てて下さった地域の方々、多くの仲間、先輩、ご指導頂いた先生方のお陰と感謝しております。

自分でも信じられぬ程

の歳月が流れ、タイムスリップする事五十三、合格発表の朝の喜びと感動、八幡ヶ丘、真岡農業高校生活科に入学、一クラス六十名で二クラス編成、教室はギュウギュウで缶詰状態でした。在校時は農協販売店の手伝いや生徒会活動と有意義

野原に移転する過渡期の時で、三年生二学期からは、ポツンと一棟建立された新校舎で学び、夕焼けに染まり広々とした、校庭でのバレーボール、ソフトボール大会も忘れられません。

卒業後は母が病弱な為すぐ就農、全て手作業の葉たばこ栽培で、規模拡大も難しくたばこ栽培を断念し、父の残した林業を守り、子育ても終えた平成七年やっと地域婦人部に入部すると会長、先輩を見習い、手芸、料理講習、健康体操、舞踊等で地域の活性化を図り、毎月の介護施設訪問ではおじいちゃん、おばあちゃんのふわふわな手に触れ「楽しかった」の言葉にいやされました。

平成九年にはJ Aはが野女性会となり、男女共同参画が進められる中、農協総代一期、地区会長、二十八年からは参加から参画に全区女性理事として微力ですが勤めております。新型コロナウイルスス拡大により活動も自粛、交流も困難な今日ですが、その時にできる活動を考え仲間と共に地域活性化や次世代を担う後継者育成に努め、真農に学んだ事を誇りとし、残りの人生自分らしく生きて行きたいと思っております。

結びに、北陵高校と同窓会の益々の発展、在校生皆様のご活躍を祈念しお礼と致します。

生徒の活躍

GLOBAL G.A.P. の認証を目指して

三年一組 果樹専攻 本 田 裕 太

越 智 諒 哉
篠 崎 柊

私たち果樹専攻生は廣田先生、小口先生のご指導のもと、男子三名、女子三名の計六名で一年間果樹の実習を通して二年前から先輩達が取り組んでいたGLOBAL G.A.P.の継続認証を目指してきました。

昨年度の先輩達は新型コロナウイルスの影響で休校となり、実習を通して栽培ができなかったため、認証審査の時に苦労したと聞きました。しかし、その逆境を乗り越

え、繋いでくれた認証を

私たちも次へ繋げなければという思いで取り組むことができました。先輩達の実習を生かし、積極的に実習に取り組むことでまずはナシ栽培について理解すること、その上でGAPの柱である食品・環境・労働者の安全をどう守っていくか、取り組んでいることを記録に残していくか、課題研究生みんなで考え、行動してきました。

今年も無事に収穫を迎え、認証審査も指摘事項なしで認証書を頂くことができました。新型コロナウイルスでさまざまな行事ができなかった中で、私たちが取り組んだことが形として残り、後輩達に繋げることができたことは、生物生産科果樹専攻としての良い思い出となりました。この経験を通しての人生に生かす、次のステージでもどんな困難にも負けないよう努力していきたいと思

北陵高の農産物は安心・安全！

三年一組 作物専攻 金 子 俊 輔

川 又 航 希
吉 成 悠 翔

私たち、作物専攻生は男子五名女子三名の計八名渡辺先生、平山先生のご指導の下GLOBAL G.A.P.取得に向けコマ栽培に取り組んできました。作物専攻では二〇一八年よりGLOBAL G.A.P.を取得しており今年度で四度目の認証となります。

今年度は特にコマの品質や作業効率の向上に向け

けい GLOBAL G.A.P. 取得に取り組んできました。昨年度購入したドローンを利用して農薬散布を行ったり、肥料の散布量を変えたりし、作業効率、品質の向上に向け日々栽培管理を行ってき

ました。GLOBAL G.A.P.の審査ではたくさんさんの質問事項に答えることが大変でしたが、今まで取り組んできたことがきちんと説明でき、普段経験することの出来ないことを経験することが出来ました。

十月七・八日GAP公開審査があり、今まで栽培してきたことを一つ一つ審査員に説明してき

全国大会に出場して

ライフル射撃部 三年一組 青 木 湖 咲



私は、令和三年八月六日(金)から十二日(木)にかけて、広島県安芸太田町で開催された全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会にエア種目で団体戦並びに個人戦に出場しました。エア種目での県代表として大きな大会は全国大会が初出場でした。そのため、日々の練習を本番のように緊張感を持って行

行うなど、部の雰囲気良くして行きました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開会式や公式練習が無く、いつも通りの大会環境とは全く異なり、不安な部分も大いにありました。そんな中でも、限られた制限の中、女子部長として出来ることを全力で取り組みました。自分の種目以外の選手の応援やサポートに会場に行くことが出来なかったため、宿舍を出る際に見送りや応援メッセージを欠かさず行いました。大会面では、感染症の影響もあり、掲示板の結果提示もなく、QRコードを利用したウェブ公開での結果速報となりました。団体戦

挑戦する」という目標は、みんな一緒だったため、本番では良いチームとしてお互い支え合いながら大会に臨めたと思います。個人戦では、初めての環境・場所だったため、自分の本番までのコンディションやモチベーションを上げて行きました。その他にも、体調面や他の選手のサポートを

並びに個人戦の結果は、残念ながら入賞は叶いませんでした。今回、このような大きな大会に出場して、選手全員がコロナに感染することなく無事に大会に参加できた事がとても良かったと思っています。また、射撃部として三年間頑張ってきたことに悔いはありません。後輩達に次は入賞を勝ち取れるよう頑張ってもらいたいです。



全国大会に出場して

ライフル射撃部 三年二組 早 川 柊

私は、三年生の夏に広島県安芸太田町で行われた全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会へ出場しました。この大会で優勝を目指し、毎日の練習はもちろんミーティングを行い、部員一人一人の気持ちを高めながら努力してきました。大会前日は、自分の銃の調整を行い、ミーティングでは各種目の大会日での注意事項や気持ちの持ち方などを考え、早く寝ました。今大会は四日間、一日一科目で行われ、感染症の影響により、それぞれの種目ごとに出る選手の

み会場に入り、その他の選手は会場に入れないという対策が取られました。そのため、携帯電話のアプリを利用し、お互いの情報を共有したり、言葉かけなどの応援を行いました。私が大会に参加した。私が出る日になり、なるべく緊張をしないように気持ちを整え大会に挑みました。会場に入るとやはり大会の雰囲気はいつもの練習している環境と異なり、自身のベストな点数を出すことができませんでした。結果は、入賞することもできず、残念な気持ちとなりました。



関東地区高校生介護技術コンテストに参加して

介護福祉科 三年五組 森 くるみ

私は、今年度の介護技術コンテストのメンバーに選ばれ、八月に動画審査で行われた栃木県大会を突破し、十一月の関東地区高校生介護技術コンテストで優秀賞をいただくことができた。介護技術コンテストとは、通称『介コン』と呼ばれ、福祉を学ぶ高校生が真剣に一つの事例に取り組み、どのような介護方法がより良いかを、根拠を持って発表する大会である。

あったが、事前の課題検討では、私たち代表メンバー三名だけではなく、介護福祉科三年生十七名が一丸となって、意見を出し合い、『より良い介護とは何か?』をクラス全員で悩みながら、追求していくことができ、とても楽しい時間となった。今回のコンテストを通じ、利用者様の背景や課題にどのような視点から目をつけ、寄り添えば良いのか身につけ、コロナ禍で施設実習が行えなかつた分、気づきや学ぶことも多かった。

関東大会では、惜しくも優秀賞という結果で

た。この全国大会という大きな舞台で良い成績を残すことができませんでした。三年間必死に射撃を続けたことに悔いはありません。この経験を活かし今後自分の成長につなげられるようにしたいです。

関東大会優秀賞という結果は、本当に悔しい結果だったので、メンバーと共に思いっきり泣いて悔しいと思いつき泣けるほど、この介コンに対して、自分たちは努力することができたのだと実感した。今回の貴重な経験から、私の高校での最終目標であり、介護福祉科の三年間の集大成である介護福祉士国家試験に向けて、より一層、身が引き締まった。

第九十四回関東陸上競技選手権大会について

陸上競技部 二年四組 上野 夢翔

私は、令和三年八月二十日から八月二十二日にかけて栃木県内で開催された第九十四回関東選手権大会に男子八〇〇mで出場しました。高校に入

学して初めての関東大会でした。毎日目標を立て、一生懸命練習に取り組みました。練習して行く上で思うように走れるか最後まで出し切れるか不安

第九十四回関東陸上競技選手権大会に出場して

陸上競技部 二年五組 今成 大地

令和三年八月二十日から八月二十二日にかけて栃木県内で開催された第九十四回関東選手権大会に男子円盤投げで出場しました。私が関東大会に出場して最も印象に残っていることは日本一の円盤投げの選手と一緒に競技が出来たことです。

溶接大会に参加して

農業機械科 一年二組 小井田 大空

私がアーク溶接の大会に出たいと思ったきっかけは、総合実習の溶接の授業を通して、溶接の楽しさを知ったからです。大会本番では、アーク

溶接大会に出場して

農業機械科 一年二組 金子 雅弥

私がアーク溶接の大会に出てみたいと思ったきっかけは一つあります。一つ目は中学生の時、高校を選んでいたときに、北陵高校は授業で溶接を学ぶことができる

二〇二一年とちぎ

地産地消夢大賞「優秀賞」

食品科学研究部 三年三組 菊地 悠史

私たちは、「令和三年度とちぎ地産地消夢大賞」で優秀賞をいただくことができました。これは、これまでの先輩方の取り組みや、現在の私たちの活動を評価していただき嬉しく感じます。



主な活動は、地場農産物である「いちご」をはじめ、茂木町のそば粉や柿ペーストの活用を目指し、それらを活用した商品開発、県内外に対してのPR活動を行ってきました。これらの活動は真岡市、道の駅、企業と連携することで、地域における活動の輪を広げ、より



科長 高橋 由起

②交流学習会の実施（野菜部）

③地域農家視察 草花部
芳賀農業振興事務所の
紹介でジャパンフラワー強

2年農業推進協議会事業

溶接コンクール(1-2 小井田)

溶接コンクール(2-2平塚)

科長大森裕樹

令和三年十月十八日
(月)に農業機械科一年生

今年度は、コロナ禍ではありましたが、少しずつ制限も緩和され、生徒たちも学習や実習、校外活動に真剣に取り組む姿

が見られました。今年度の生徒活動状況と取り組みについて紹介します。

① 栃木県学校農業クラブ
連盟平板測量競技会
令和三年八月五日（木）

に栃木県立小山北校高等
学校において「栃木県学校
農業クラブ連盟平板測量競
技会」が行われ、本校から
は農業機械科三年生の四名
が参加しました。この競技
は、平板測量の技術を用い
て、指定された測量区域の

境界線測量と、測量成果をもとにした面積計算、図面仕上げを行っていくものです。本学科には測量の授業がない中、生徒たちは一から勉強し、練習も放課後や夏休み等に行い、測量技術を磨きました。良い結果とはなりませんでしたが、今回参加した三年生の頑張り、来年以降参加する下級生に良い刺激となりました。

なりました。コロナ禍で思
うような練習ができない中
で、本校から二人の入賞者
が出たことは努力の賜物と
いえます。残念ながら関東
大会への出場は惜しくも叶
いませんでしたが、来年度
は関東大会に出場できるよ
う指導に当たっています。

今後も地域に貢献でき
るような人材の育成に取り
組んでいきたいと思います。

同様の生産量となりました。品質面については、新しく導入したオープンや味噌閑連機器を使用することにより、これまでよりも安全に高品質の加工品を製造することができました。

真岡市折り鶴プロジェクト オンライン交流会

して、高齢者デイサービスセンターと交流しているが今年度は新たに、実習生とオンラインでつなぎ、職員さんの講義やタブレッツで施設の中を紹介していただいた。画面越しではあものの、お風呂やデイルムの様子など、施設設備見学できたことは、とても貴重な機会となった。また高齢者施設以外にも、社

のこと、困難な時代だからこそ、『人として、今何ができるか』を真剣に考える行動できる力は、現代においてとても大切なことである。人々の生活を守ることに事として、介護職への期待型が益々高まっている。専門性豊かな広い視野を持った心豊かな「介護福祉士」として、地域で活躍してくれることを期待したい。

クルール
令和三年十月二十三日
(土)に栃木県立県央産業技術専門校で開催された「とちぎものづくり技能競技大会 溶接の部(第十二回栃木県高等学校溶接コンクール)」において、農業機械科二年平塚郁充・農業機械科二年小井田大空、金子雅弥が出場し、小井田が三位、金子が五位(優良賞)という結果と

でを総合的に学ぶことができます。また、貯蔵・品質管理及び食品衛生に関する知識と技術を身に付けることで、食品関連産業への就職や、上級学校への進学を目指します。

昨年度は生徒が製造する加工品（味噌、いちごジャム、ブルーベリージャム）の生産量を減らして製造・販売を行いました。が、今年度は生徒たちの頑張りににより、一昨年と

ンテストで食品科学科の生徒が入賞するなど、学科の学習を活かした活躍をしてくれました。学科の特徴を活かした地産活動においては、一年連続でとちぎ地産地消夢大賞の「優秀賞」をいただくなど、生徒たちにとつて自信に繋がる活動が続けることができました。

今後も生徒の安全に配慮した上で深い学びに繋がる活動を行っていきたいと考えています。

生徒は戸惑うことなく、全日程を無事終了することができたが、介護現場にて介護実習ができないのもどかしさと、感染拡大防止の観点と、実習先と何度も検討を重ねた。生徒・家族にとっても、最も安全な選択として、本校は、今年度も校内代替実習を選択した。

校内代替実習では、昨年度から、Zoomを使用

進課より募集のあった、新型コロナウイルス感染症対策普及事業のアイデア募集でも介護福祉科三年の市村さんのアイデアが最優秀賞に選ばれ、十月に行われた市成人式では、市内四校の高校で折られた折り鶴、約三万七千羽が、会場を華やかに、そして温かく飾ることになった。

自分たちが学んでいる福祉の専門的知識は勿論

食品科学科では、食品の生産から加工・流通までの様々な活動を行っています。写真には、実験授業、校外学習、先生を招いた装飾練習、そして学生団体の写真が収められています。

は、昨年と同様に味噌やジャムを道の駅で販売していただけでなく、加工品の宣伝の場を広げていきました。

校外活動として、今年四年目となる「ベリーネットはが野」の北陵こはんのコーナーにおいて毎月レシピ提供するのは、様々な料理コンテストで入賞している上級学校見学（専門学校）とちぎ地産地消夢大賞2年連続「優秀賞」

変更として、平成三十年度入学生から、介護福祉科・定員三千名と、時代とともに変化してきているが、変わらないものは、介護福祉士国家試験の挑戦である。

令和三年度も、新型コロナウイルス感染症の収束がまだ見えない中、本来ならば、施設で実施するはずの、五十五日間の介護実習を、校内代替という形で実施した。昨年度も校内代替で実習を行っていたので、主

社士養成に対して、地域からの温かい応援を感じた。依然として先が見えない状況下ではあるが、介護福祉科の生徒は、主体的に考え行動している。昨年からは、真岡市社会福祉協議会を通じて配布していた『真心カード』も、今年度二目目に突入した。今年度は、季節の豆知識をカードの中に書き添え、カードの内容がより充実したものとなることを目指している。

② いちごジャム製造

カゴメ株式会社研究所見学
(ネット接続による校内での見学)

今年度は、介護福祉科として初めての卒業生が巣立つ年である。平成七年度に教養福祉科・定員四十名としてスタートし、平成二十年度入学生から定員三十名に

問介護事業所や障害者施設等からも校内代替実習に對して、多数の協力をいただき、オンラインでの交流や講義をしていただけとは、改めて実習先の強

科長 粕谷 晴之輔

科長 柳路子

総合ビジネス科

科長 飯田 佳史



読上算 個人3位



ワープロ競技大会



生徒商業研究発表大会

総合ビジネス科では、未来のビジネスに従事するスペシャリストとして商業の見方・考え方を働かせ活躍すべく、必要な基礎・基本の学習をはじめ、「ビジネス基礎」「マーケティング」「経済活動と法」「簿記」「情報処理」等のビジネスに関する専門科目を学習しています。

また、地域の企業や関係機関と連携した商品開発やインターネットを利用した電子商取引など実践に即した活動を通して、より具体的にビジネスに対する興味・関心を高め、経済のグローバル化、情報通信技術の進歩等、経済社会を取り巻く環境の変化に柔軟に対応できる実践力を身に付けさせております。

今年度は、コロナの状況も緩和され、さまざまな場面で生徒が活躍する様子が見られました。六

月に佐野松桜高校で行われたビジネス計算競技大会において、三年四組の國吉綾菜さんが電卓読上算で個人三位に入賞しました。また、ワープロ競技大会では、おしくも入賞とはならなかったものの、日頃の成果を十分に発揮できた大会となりました。七月には、栃木市の文化会館において、生徒商業研究発表大会が開催され、三年生を中心に自分たちがテーマとした課題研究の成果を堂々と発表し、奨励賞をいただきました。

また、日頃から資格試験に向けて真剣に取り組む様子も見られました。今年の三年生は現在、全国商業高等学校協会が主催する検定において、五種目で一級合格している生徒が七名、四種目で四名、三種目で六名と、これまで以上の成績をおさめることができました。

今後、下級生のみならずには、先輩の姿を見習って、しっかりと引き継いでくれることを期待します。

三団体の活動内容

農業クラブ会長として

三年三組 田崎 幹 弥

私は今年度、農業クラブの会長という立場で活動してきました。昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響がありました。しかし、昨年とは異なり、感染症対策を行ったうえで、いかに例年通りの大会

を企画・運営するかが課題となった年でした。県大会では、消毒や換気を徹底し、クラスターにならないように注意しながら運営しました。そのような状況下でも、発表者の方々が力を出し切れるように心掛けました。特に一番努力した

ことは、自分自身が大会に積極的に参加することです。他にも後輩たちにコロナ前の農業クラブ活動について伝えたり、相談に乗ったりしました。そうすることで、今までの先輩たちが築き上げた伝統を、私の代で途絶えないようにしました。私はこの一年間を振り返り、会長として力を出し切ることができました。

農業クラブ活動報告

顧問 菅 原 礼太郎

■会務と事業

- 4/20 第一回役員会・春季役員研修会
- 4/28 校内学校農業クラブ総会
- 5/11 校内意見発表会
- 6/8 家畜審査競技会県大会(肉牛の部)
- 6/18 栃木県学校農業クラブ連盟大会(プロジェクト・意見発表県大会)
- 7/9 校内農業鑑定競技会
- 8/6 フラワーアレンジメント競技会
- 8/10 平板測量競技会
- 8/20 関東地区学校農業クラブ連盟大会(埼玉)

- 9/10 第二回役員会(Zoomにて開催)
- 10/27 日本学校農業クラブ連盟全国大会(兵庫)
- 12/8 立会演説会・選挙投票日(Zoomにて開催)
- 12/14 第三回役員会
- 1/19 校内プロジェクト発表会
- 1/21 新役員研修会

●総会

年度初めの総会では、令和二年度会務並びに事業報告(校内・県連)、会計決算報告、令和三年度会務並びに事業案(校内・県連)、会計予算案について審議されました。

●校内意見発表会
本校第一体育館で行われた校内意見発表会では、四十問の問題に挑戦

しました。

- 生物生産科 最優秀賞 三の一 櫻井 貴志
- 農業機械科 最優秀賞 三の二 加藤 智也
- 食品科学科 最優秀賞 三の三 藤島 そら

●栃木県学校農業クラブ連盟大会各種発表大会

栃木県教育会館を会場に、県大会が行われました。校内予選を勝ち抜いたクラブ員が学校代表として出場しました。五部門中三部門で最優秀賞を獲得することができ、関東大会への切符を手に入れることができました。

- プロジェクト発表 優秀賞 三の一 小川 聖斗
- 「僕と父と祖父とトマト」
- 優秀賞 一の三 小室 優明
- 「承なぐべきもの」

●校内農業鑑定競技会

本校第一体育館で行われた校内鑑定競技会では、クラブ員が普段学んでいる専門知識について、四十問の問題に挑戦

て、長持ち、うまみの強い「北陵いちご豚」を始めました。」

【分野・Ⅲ類】

- 「ビューマンサービス」(優秀賞) 三の三 菊地 悠史
- 「フードアクション芳賀」輝け！僕らの宝石たち」

○意見発表

- 【分野・Ⅰ類】 「生産・流通・経営」(優秀賞) 二の一 小川 聖斗

【分野・Ⅱ類】

- 「開発・保全・創造」(最優秀賞) 二の三 直井 紅李
- 【分野・Ⅲ類】 「ビューマンサービス」(最優秀賞) 一の三 小室 優明

●家畜審査競技会(肉牛の部)

栃木県畜産酪農研究センター(那須塩原市)を会場に行われ、本校生徒は三名が参加しました。その結果、本校では久々となる最優秀賞を受賞することができました。

○出場者

- 三の一 新井 杏子
- 三の一 奥田 玲夏
- 三の一 眞田 稀央

●フラワーアレンジメント競技会

JAしおのや矢板地区営農生活センターにおいて、指定された花器・花材を用いてフリースタイルで各校代表生徒が作品を作り上げました。

○出場者

- 三の一 松本季良々
- 今年度の平板測量競技会では、小山北校高校クラブ員にて行われました。本校からは、農業機械科三年のチームが出場し、優秀賞を獲得しました。
- 出場者 三の二 秋本 桃花
- 星野 夏輝
- 細谷 慶汰
- 谷口 聖連

●関東地区学校農業クラブ連盟大会(埼玉大会)

埼玉県において第七十二回関東地区学校農業クラブ連盟大会が令和三年度埼玉大会が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、予め各校で録画した発表の映像を提出し、審査される形式になりました。本校からは栃木県代表として三部門に選手が出場し、日頃の研究成果や自分の経験や将来について堂々と発表することができました。

【分野・Ⅰ類】

- 「生産・流通・経営」(優秀賞) 三の一 鈴木 真奈
- 三の一 眞田 稀央

○意見発表

- 【分野・Ⅱ類】 「開発・保全・創造」(優秀賞) 二の三 直井 紅李
- 【分野・Ⅲ類】 「ビューマンサービス」(優秀賞) 一の三 小室 優明

●日本学校農業クラブ連盟全国大会(兵庫大会)

兵庫県において第七十二回日本学校農業クラブ全国大会が令和三年度兵庫大会が行われました。農業鑑定競技会に各学科の代表に選ばれた三名が出場し、一名が優秀賞を獲得することができました。- 出場者 三の一 田崎 幹弥
- 農業コース
- 食品コース
- 三の三 望月きらら

令和三年度 農業クラブ役員一覧

- 会長 三の一 田崎 幹弥
- 副会長 三の一 奥田 玲夏
- 二の二 塚田 緑
- 二の三 武田 朱音
- 書記 三の一 松本 季良々
- 二の一 小島 恋奈
- 会計 三の三 菊地 悠史
- 二の三 島村聖莉奈
- 監事 三の一 本田 裕太
- 二の一 北村 妃奈
- 庶務 三の二 高橋 優貴
- 三の二 細谷 慶汰
- 三の三 若狭 勇希
- 二の一 水沼 輝星
- (とち編集委員) 二の二 伊澤 柊太
- 二の二 黒子 雄大

関東プロジェクト大会に参加して

生産生産科 三年一組 鈴木 真奈

私たちは、六月に行われた県大会で最優秀賞をいただき、関東大会に出場することができました。普段私たちは、プロジェクトのメンバーで協力しながら、豚にイチゴを与えて「北陵いちご豚」を生産し、毎日の飼養管理だけでなく、肉質分析や販売活動を行っています。昨年度に

は先生方や生徒のみならず、への販売を実施するとともに、遊離アミノ酸分析も実施しました。その結果、「北陵いちご豚」は通常の豚肉よりも甘くてうまみの強い傾向があることが分かりました。このような研究ができるのは、多くの先生方に助けていただいているおかげです。

関東意見発表大会に参加して

食品科学科 一年三組 小室 優萌

私は、第七十二回関東地区学校農業クラブ連盟大会埼玉大会に出場しました。本来ならば、大会は八月十九日・二十日に埼玉県鴻巣市で行われるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、規模が大幅に縮小され、事前収録した動画による審査会という形で行われました。

私は当初、何を題材にするか迷っていました。そのときに「保全」という言葉を見て栃木県の郷土料理であるしもつかれが思い浮かびました。そこからしもつかれについてさまざまなことを調べていくうちに、フードロスの削減に関係していることを発見しました。昔の人たちの食材を無駄にしないための工夫に驚いたことを、私は今でも覚えています。

大会出場に当たっては、真岡北陵高校の代表、そして栃木県の代表として自分の意見をしっかりと伝えられるように原稿を考えました。コロナ禍ということもあり、あまり学校で練習ができず、自分で練習することの大変さを痛感しました。大会の結果は残念ながら優秀賞という形でしたが、私は悔いなくできたと思います。

最後に、放課後遅くまで原稿の作成や練習を指導していただいた先生方、アンケートに協力していただいた方々、大会の運営に関わった方々に感謝します。ありがとうございました。

関東意見発表大会に出場して

食品科学科 二年三組 直井 紅李

今回、関東大会に出場して大切だと思った事は二つあります。

一つ目は、自ら行動を起こすことです。私は自分から行動することが苦手でしたが、今大会全てを通して、一からピクルスを作ったり、道の駅の方々に協力していただくなど、

様々なことに対して自分から行動に移すことができました。

二つ目に、自分の意見を発表することです。コロナ禍ということもあり、人前で意見発表をする機会が減っているなか、こういった大会で、自分が経験したことをも

全国大会（鑑定）について

食品科学科 三年三組 望月 きらら

私は、令和三年十月二十六日（火）から十月二十八日（木）にかけて兵庫県で開催された第七十二回日本学校農業クラブ全国大会の農業鑑定競技に出場しました。

鑑定競技は校内の問題よりもレベルが高く全国大会の壁を感じました。しかし、大会出場が決まっ

てから、出題範囲を一つずつ確認し勉強したことで自信を持って大会に臨むことが出来ました。

私はこの大会に出場したことによりコミュニケーション能力が身につきました。最初は大会からの不安や緊張から同校の人たちとも話すことができませんでしたでしたが、大会中にたく

さんの人々と話す機会がありました。私たちの共通の話である農業の話や学校の特色の話をしたことで仲を深めることができました。

最後に、今まで学習してきたことが大会を通して生かすことができ新たな発見をすることができました。

農業鑑定競技全国大会に参加して

生物生産科 三年一組 田崎 幹弥

私は、生物生産科の学科代表として第七十二回日本学校農業クラブ全国大会令和三年度兵庫大会に出場しました。この競技は農業の幅広い知識が求められる競技です。一年生の時から力を注いでいました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で大会が中止になってしまい、とても悔しい思いをしました。

が、その分だけ、今年学科代表に選ばれ嬉しかったです。そこからは今までよりも本格的に学習を始めた。夏休みには、一通りの範囲の資料を作成し終わり、しっかりと知識として定着させる学習をしました。過去の大会の問題を解いたり、調べても分からないところは先生方に聞いたりして工夫を

しました。また、他学科の代表の生徒と一緒に学習をし、お互いに知識を深めました。本番では緊張のあまりミスをしてしまいました。自分の力をしっかりと出せることができました。結果として、私は優秀賞を獲得することができました。今までの努力が報われたようで嬉しかったです。

全国大会に出場して

農業機械科 一年二組 加藤 智也

私は農業鑑定競技会で全国大会に出場しました。校内大会の時は、農業鑑定競技会ってどんな感じかも知らず、全国大会など想像にもありませんでした。しかし、やってみると案外解けるかなと校内大会では思いました。しかし、全国大会に出場すると、想像以上の

出場者数などから、とても緊張しました。競技が開始されたら、問題だけに集中するようにし、最善を尽くすことはできました。結果は、入賞はできませんでしたが、私はまだ一年生です。出場のチャンスは、あと二回残されています。来年、再来年と農業の知識を増や

していきたい。残り二回も出場できるように頑張りたいと思います。そして、全国大会での最優秀賞をとれるように、日々計画的に学習を進めて行きたいと思っています。今年の出場の経験を活かし、順位だけでなく、点数でもさらに上を目指したいと思っています。

生徒会長として

三年三組 豊田 誓哉

私が生徒会長に任命されてから一年が経ちました。希望と不安が入り混じるなか、生徒会活動が始まりました。就任した当初は新型コロナウイルスが猛威をふるった年で、私に会長が務まるの不安でしたが、たくさんの方々に支えられて、ここまでくることができました。

昨年は、ほとんどの行事が中止になってしまいました。希望と不安が入り混じるなか、生徒会活動が始まりました。就任した当初は新型コロナウイルスが猛威をふるった年で、私に会長が務まるの不安でしたが、たくさんの方々に支えられて、ここまでくることができました。

私が生徒会長に任命されてから一年が経ちました。希望と不安が入り混じるなか、生徒会活動が始まりました。就任した当初は新型コロナウイルスが猛威をふるった年で、私に会長が務まるの不安でしたが、たくさんの方々に支えられて、ここまでくることができました。

生徒会活動報告

顧問 手塚 宗恵

今年度の生徒会活動について、ご報告いたします。今年も新型コロナウイルスの感染拡大のため、限られた行事を出来る範囲で行いました。

一学期は対面式を放送で行い、部活動紹介は活動の様子を写真や動画をjyいて各部活動の代表が説明をする形で実施しました。

二学期は北陵祭の代替行事として、北陵高クイズ大会と華道部・写真部・文芸部・福祉科の展示を行いました。北陵高クイズでは各クラスの代表が体育館で〇×クイズを行い、その様子を教室でモニターを

見ながら応援したり、決勝戦はクラス皆で問題を解いたりしました。新しい取り組みでしたが、生徒会役員の協力のもと楽しい行事になりました。また、文化部の展示では、普段見ることのできない部活動の活躍を見ることができました。

最後になりますが、今年度ご協力いただいたことに改めて感謝申し上げます。新しい生活様式の中で、生徒会活動も制限されています。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いします。



部活動紹介

クイズ

福祉科展示

写真部

文芸部

華道部

家庭クラブ会長として

三年五組 荒井 彩 香

私は昨年度から家庭クラブ役員として活動し、これまでに多くの経験をさせていただきました。今年度は家庭クラブ会長という立場で活動させていただきますが、年度当初はこのような責任のある役目を果たすことができるのかという不安ばかりでした。しかし、顧問の先生や福祉科の先生方、役員の仲間など多くの方々に支えられ、最後まで役目を果たすことができました。

家庭クラブの校内活動としては、エコキャップ回収や災害ボランティア勉強会、調理・着付けの講習会などがあります。また、昨年度から実施してきた「真ごころカード」もバリエーション豊富に技術もアップし、今年度も真岡市社会福祉協議会で実施している「老人給食サービス事業」にて配布していただいています。校外活動としては、県連の様々な行事に参加しています。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により例年と同じような活動ができなくなりました。このよう

な状況の中だからこそ、思い、「真ごころカード」の製作に力をそそぎました。月ごとに豆知識を入れるなど工夫し、利用者の高齢者の方々が少しでも元氣になっていただき、より明るく毎日を生活していただけたらと福祉科が一致団結し、ひとつひとつ真心を込めて製作しました。

この活動を通して、真岡北陵高校と地域の皆様との絆が深まったように感じています。新型コロナウイルスの終息後であってもこの活動を是非続けていってほしい活動の一つです。

最後になりますが指導していただいた先生方、クラブ員、地域の皆様、あたたかいご支援をありがとうございました。今後の家庭クラブ活動が、地域との架け橋となり真岡北陵高校の益々の発展へ結びつくことを祈念いたします。今までも本当にありがとうございました。

家庭クラブ活動報告

顧問 鈴木 佳子

コロナ禍で日々の生活が大きく変化してしまいました。家庭科では、生活における学びとともに広い視野にたつて社会の動きをしつかりと捉え、あらゆることを自分の事と考えられることが最も重要としています。そんな中で生徒たちの活動は制限を余儀なくされていますが、地域の高齢者の方々に届ける手作りの『まごころカード』は継続することができています。

食サービス事業時に一人暮らしの高齢者のもとへ毎月配っていたいでいます。生徒たちは、毎月毎月工夫を凝らして作成しています。読みやすくする工夫・明るい気持ちになる工夫・季節や行事のお知らせ・前向きな元気になる工夫などなど心を込めて作成している姿は誇らしく思えます。

いつもでも続けていて欲しい活動の一つです。また、今年度クラブ員の活動として料理講習会の活動として再度家族で話

を実施しました。二学期の後半になり新しい家庭クラブ役員が決定したこともあり、今以上にクラブ員の協力体制を強めていくためにも有意義な活動になりました。

三・一東日本大震災から十年を迎えた令和三年ですが、私たちは改めて災害に対する備えを考えなければならぬと感じております。ハザードマップの確認や家族との連絡方法の確認、避難経路の確認、備蓄品を備える準備など再度家族で話

進路室から

進路指導部長 大山 晃

生徒たちの弛まぬ努力と保護者の皆様のご協力、そして同窓会の皆様や地域の皆様のご支援により、本校の令和三年度の進路状況は、昨年度同様概ね良好でした。

初めに就職の状況についてご報告申し上げます。昨年度から続くコロナ禍の影響で求人数が減少してしまっているのではないかと当初の不安も求人票受付開始とともに払拭され、地元製造業を中心に多くの求人を頂戴することができました。

さらに、これまで以上に広い範囲から求人を頂戴しました。こうした企業も多くは、本校の諸先輩が活躍されている企業

で、今後も本校とのつながりを築きたいというところで、本校の同窓生のご活躍と絆を強く感じた一年でした。また、新卒高校生の求人を初めて出すという企業や、数年ぶりに新卒高校生の求人を出すという企業もあり、「ぜひ、真岡北陵高校から採用したい」という、ありがたいお言葉を何社かいただきました。最終的に、昨年度を上回る五〇〇社以上の県内企業の求人票を頂くことができました。

続いて進学状況について御報告申し上げます。今年の三年生は、女子の進学者が昨年度の二倍と非常に進学率が高くなっております。進学先については、本校で学んだ専門的な知識や技術をさらに深

めることができる進学先を選択する傾向が、近年増えてきております。四年制大学や短期大学への進学は微減となり、自分の興味関心や将来の就職に備えるための技術の習得や資格取得ができる専門学校等を選ぶ生徒が多く見られました。生徒たちは、コロナ禍でオンライン 캠퍼스などに制限がかかる中でも積極的に参加するなど、卒業後の就職を見据え、明確な志望動機や将来の目標について納得がいくまで考えており、進学先でも熱心に学びを深める姿が目につ

きます。「求人票が多すぎて、一社に決められない」という、贅沢な悩みを訴える、生徒や保護者がいたほどです。

かびました。各進学先で夢を叶えるための有意義な学びを続けてほしいと思います。

最後になりますが、今年度も生徒の進路実現の力となるよう、更なる進路指導の充実に努めて参りたいと思います。今年度も、同窓生の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

前同窓会長 菅谷善六様が令和三年八月に死去されました。心よりご冥福をお祈り致します。

訃報

編集後記

同窓会会報「北陵」第四十五号をお届けします。お忙しい中、皆様にはご寄稿いただき深く感謝申し上げます。

さて、令和三年度も新型コロナウイルスの感染予防対策に悩まされたことが、昨年十一月頃から感染者数は全国的に激減し、徐々に人の動きも活発になってきました。それに伴い、学校においてもすでに対面での授業も行われると共に運動・文化両面でも生徒の活躍が見られるようになりました。

また、コロナ禍でも北陵生の進路状況も順調に進んだようです。大変嬉しく思います。

将来のある生徒諸君のご活躍をお祈りしています。

(昭和四十五年度卒 小堀 辰夫)

令和3年度 3年生の進路状況

(1月31日現在)

在籍数	学 科 名	男 子	女 子	合 計
	生 物 生 産 科	21	18	39
	農 業 機 械 科	36	2	38
	食 品 科 学 科	7	31	38
	総合ビジネス科	10	29	39
	教 養 福 祉 科	0	17	17
	合 計	74	97	171

就 職	学 科 名	公務員		県 内		県 外		在家・未定		合 計	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生 物 生 産 科	1	0	13	8	0	1	0	0	14	9
	農 業 機 械 科	1	0	24	1	2	0	1	0	28	1
	食 品 科 学 科	0	0	4	11	0	2	0	1	4	14
	総合ビジネス科	1	0	3	12	0	0	0	0	4	12
	教 養 福 祉 科	0	0	0	13	0	0	0	0	0	13
	合 計	3	0	44	45	2	3	1	1	50	49

進 学	学 科 名	国公立大学		私立大学		私立短大		専門学校等		未 定		合 計	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生 物 生 産 科	1	0	1	1	0	0	5	8	0	0	7	9
	農 業 機 械 科	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	8	1
	食 品 科 学 科	0	0	0	0	0	1	3	16	0	0	3	17
	総合ビジネス科	0	0	0	3	0	2	5	12	1	0	6	17
	教 養 福 祉 科	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
	合 計	1	0	2	5	0	3	20	40	1	0	24	48